

産婦人科又は小児科を専攻した医師の配置の特例

1 特例の概要

産婦人科又は小児科を専攻した養成医師は、義務履行の際に、他の診療科を専攻した養成医師が中小規模の医療機関で総合診療等に従事しなければならない期間においても、医師不足が深刻な県立病院等の地域周産期母子医療センター等で産科医等として優先して診療することを特例的な取扱いとして可能とする。

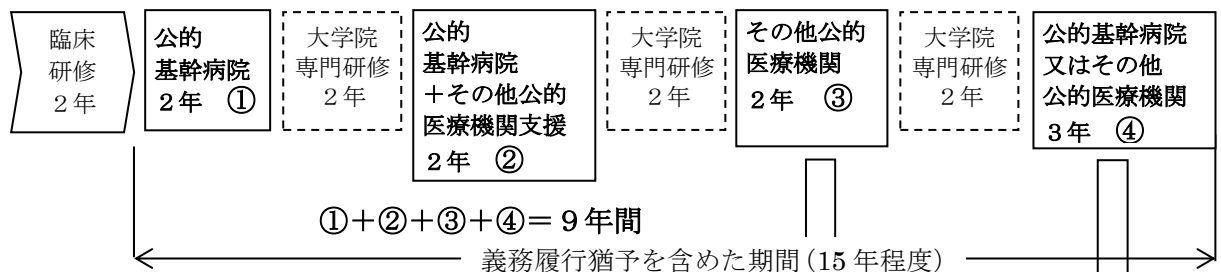
なお、この場合、配置先は、医師不足が深刻な沿岸部等の地域に少なくとも 2 年間の配置となる。

(参考) 地域周産期母子医療センター (下線は、沿岸部等の地域にある病院)

県立中央病院、盛岡赤十字病院、県立中部病院、北上済生会病院、県立磐井病院、
県立大船渡病院、県立宮古病院、県立久慈病院、県立二戸病院、県立釜石病院 (協力病院)

2 配置パターン (岩手県医師修学資金 (地域枠) の場合)

(1) 奨学金養成医師の配置基本パターン



(2) 産婦人科又は小児科を専攻した場合

